

「高度経済成長期教育史」研究部会（第12回）

日時：2023年4月14日（金）13:00～15:00

場所：野間教育研究所

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
山口和人所長・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）須田研究員「加藤哲郎『日本の社会主義—原発反対・原発推進の論理』（2013）を読む」
20世紀における日本の社会主義が近代化・経済成長と原子力・原爆・原発をめぐる問題と
いかに向き合ってきたか、主に日本社会党や日本共産党に焦点が当てられた。

（戦後の第5章から）

第5章 原子力にあこがれた社会主義—武谷三男の場合

第6章 「アトムズ・フォー・ピース」の日本的受容

第7章 平野義太郎と日本共産党の「平和利用」論

第8章 日本社会党と有澤廣巳の「原子力と社会主義」論

今後の研究課題

- ・武谷三男の動きに着目した反原発の市民運動、日教組との関わりは今後の研究課題の一つ
- ・文部省や原子力産業会議、政策に協力的な大学等がいかなる教育支援を行っていったのか、
「原子力の平和利用と教育」を国策の面から照らし出す

（2）米田研究員「高度経済成長期の教育をめぐる政治的権力関係の展開（紀要論文の構想案）」
資料や先行研究をみて、テーマの見通しをたてる

テーマ案：高度経済成長期の教育をめぐる政治的権力関係

- ・文部官僚の回想資料（内藤馨三郎、天城勲、木田宏、西田亀久夫）
- ・新聞記者による記録（朝日、日経、毎日、読売）
- ・教育行政学関連の先行研究
- ・特に日教組について（主流派⇔反主流派 労働者性⇔専門職性）
- ・明治図書出版 月刊誌『現代教育科学』の1966-1972年の記事

・次回研究会 5月19日（金）13:00～

・次々回研究会 6月30日（金）13:00～